

キャラクター名  
一条 虎太郎 (いちじょう こたろう)

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ノイマン		ワークス	FHエージェントC	カヴァー	高校生
	オプショナル		年齢	18歳	性別	男性
覚醒	憤怒	衝動	破壊	初期侵食率	35	%
出自	名家の生まれ	経験	大成功	邂逅	欲望:進化	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1		0			1	行動値	6
感覚	1		0			1	(非装備時)	6
精神	4		0			4	戦闘移動	11
社会	2		0			2	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報:(情報,FH)	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
イノセントブレード	白兵	1r	3	8		命中判定ダイス+2個
イノセントブレード	白兵	1r	3	8		装着者の効果で無料。命中判定ダイス+2個

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース×2	
思い出の一品	
レインボウアビリティ	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
装着者(アイテムユーザー)	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P: 36

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
CR:ノイマン	2	2	メジャー	-	-	自動	-	
効果:	C値-Lv							
ブラックマーケット	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	常備化P+[Lv×10]する							
マルチウェポン	3	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	2つ武器を使う。達成値-[5-Lv]							
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	【精神】で代理判定							
コンバットシステム	2	3	メ/リ	-	-	対決	-	
効果:	判定ダイス+[Lv+1]							
音速攻撃	2	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	攻撃ダイス+Lv個							
マシラのごとく	2	5	メジャー	-	単体	対決	80%	
効果:	攻撃力+[Lv×10]判定ダイス-5個							
リミットリリース	1	6	オート	至近	自身	自動	100%	
効果:	C値-1。シナリオ一回							
勤功	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「俺は刃だ。全てを切り殺す凶刃だ」  
「何よりも強くなりたい。その一心で研鑽を積んできた。頭がいいわけじゃないが頭の回転はいいって褒められるのは…悪い気分じゃないな」

【設定】  
双剣を扱うFHエージェント。極めて精密な剣術を持ち、世界有数の実力者と言われていた。元々は剣術の名門一家の生まれでありその才覚は幼少期から発揮されていた。教えていないのに刀の握り方、歩法など初歩的な技術を既に会得しており親類からは「100年に一度の天才」「産まれる前に先祖に教示してもらっていたのではない」などと噂され、虎太郎の父もその才を褒めていた。だが、彼が青年になると周りは恐怖を感じるようになる。中学生の頃、虎太郎は剣道部に所属しておりその剣道部でもエースとして期待されていた。「彼がいれば県大会…いや、全国大会出場も夢じゃない」と。しかし、それは意外な結末を迎えた。事実彼らは虎太郎の教えもあり全国大会に出ることに成功した…が。それを最後に剣道部は廃部になった。理由は虎太郎以外の全部員が剣道部を去ったからだ。彼らが剣道部を去った理由、それは虎太郎にあった。剣道部員は虎太郎に対して恐怖の感情しか持ち合わせていなかったのだから。その理由は単純明快。虎太郎の異常過ぎる強さだった。というも虎太郎はその大会全てで1太刀も受けなかったのだから。全ての攻撃を見抜き、防ぎ、避け切った。一方で彼の攻撃は全ての中しその悉くが一撃必殺の威力をもちあわせていた。